



個人投資家向け会社説明資料

動物医療に真剣に取り組む会社

株式会社日本動物高度医療センター

東証マザーズ：6039

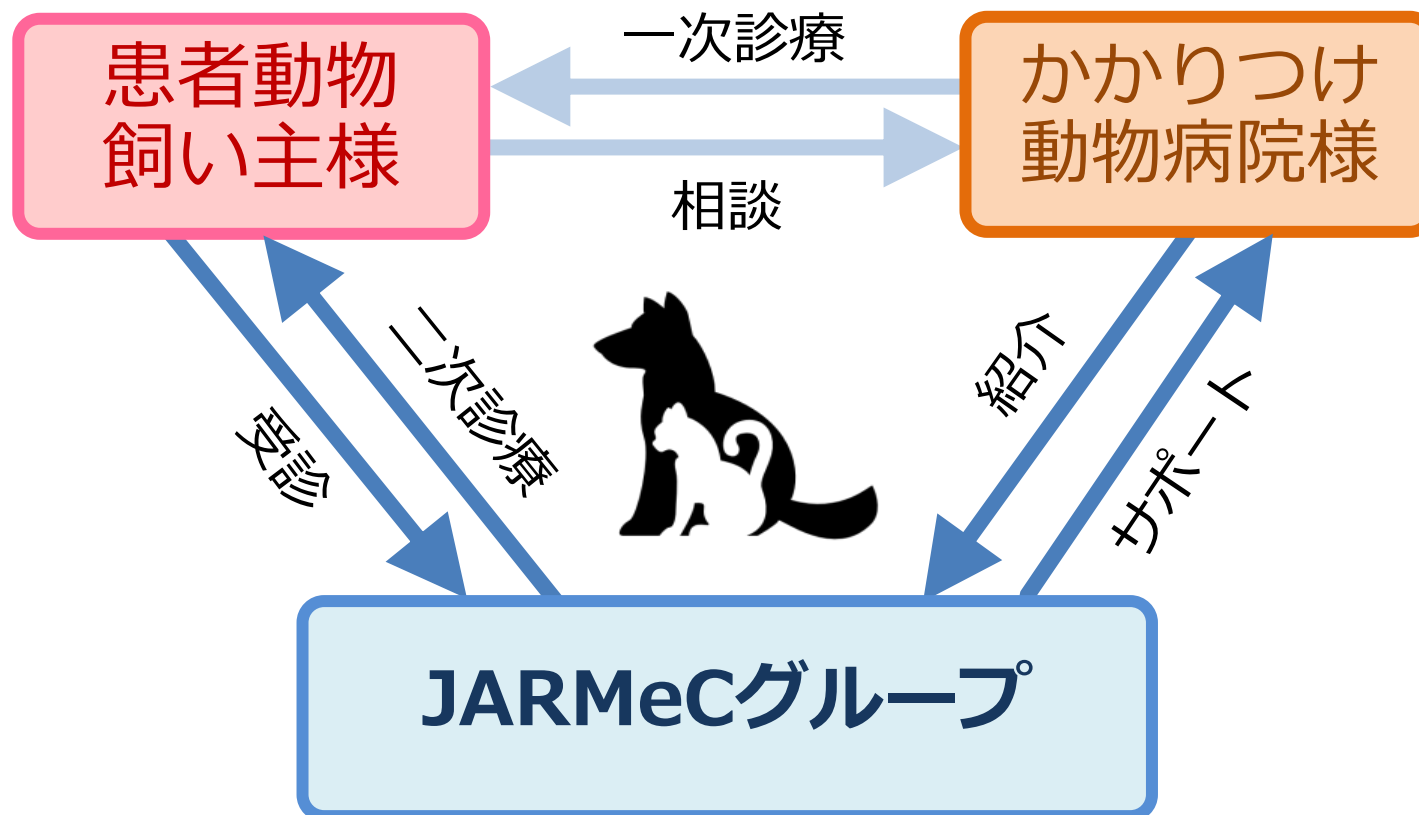
2018年2月21日

1	会社概要	P.3
2	2018年3月期第3四半期 決算ハイライト	P.32
3	市場動向と成長戦略	P.38
4	Appendix	P.46



1. 会社概要

会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻の巣 1-602 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7
設立年月日	2005年9月26日
資本金	373,750,660円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	184名（非常勤19名を含む）（2017年12月現在） ※グループ全体
関連会社	株式会社 キャミック



JARMeCグループはかかりつけ動物病院様と連携して充実した動物医療体制を実現。

- 2005年 9月 **株式会社日本動物高度医療センター**を設立
- 2007年 6月 **川崎本院**を開業
- 2009年 3月 『**小動物臨床研修診療施設**』として民間では初めて農林水産大臣より指定
- 2011年12月 **名古屋病院**を開業
- 2014年 1月 **株式会社キャミック**(高度医療機器を用いた動物の画像診断センター)を子会社化
- 2015年 3月 **東京証券取引所マザーズ市場**に新規上場
- 2018年 1月 **東京病院**を開業

JARMeCは動物医療業界において、

「臨床や教育の現場で活躍する**人材教育**」の環境を整え、

「動物医療技術の向上を担う**臨床研究**」にチャレンジし、

「教育、研究の実践の場としての**高度医療**（二次診療）」
を地域の連携病院と協力して提供する

以上により広く社会に貢献することを理念としています。

3,330病院

(2018年1月末時点)

- JARMeC
- 大学病院





当社の理念に賛同いただいた動物病院様には「**連携病院の証**」を進呈し、

① [JARMeCグループのウェブサイト](#)に「[連携動物病院情報](#)」を掲載

② [JARMeCから「学術情報・セミナー情報等」](#)を配信

③ [ご紹介いただいた症例について、JARMeCにおける「診療・手術」の見学受入](#)

等のサービスを実施



JARMeCグループの各拠点



JARMeC 東京 (東京都足立区)



JARMeC 名古屋 (名古屋市天白区)

CAMIC ひがし東京



CAMIC 城南



CAMIC 練馬



CAMIC 埼玉





JARMeC 川崎本院の紹介

●所在地：川崎市高津区

- ・日本の主要都市における人口増加率 1 位
- ・より多くの人口を抱える東京都と横浜市の中間に位置
- ・高速道路とのアクセスが良く遠方から来院しやすい

●土地：2,100㎡ ・ 駐車場 22台

●建物：5階建て (3,800㎡)



【診療時間】

9:00~20:00 (年中無休)

- **1階** : 受付、待合室、診察室、処置室
検査室（X線・超音波・MRI・CT）、放射線治療室



- **2階** : 手術室、オペミーティングルーム、モニタールーム



● **3階** : 免疫治療室、検査センター



● **4階** : 入院室、宿直室、図書室、待合ラウンジ



● **5階** : セミナールーム、スタッフルーム



- 人医療と同様の高度な医療機器を備える

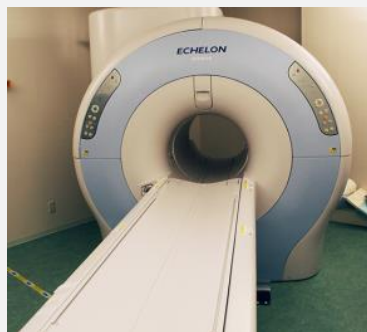
大型精密機器



放射線治療装置



CT



MRI

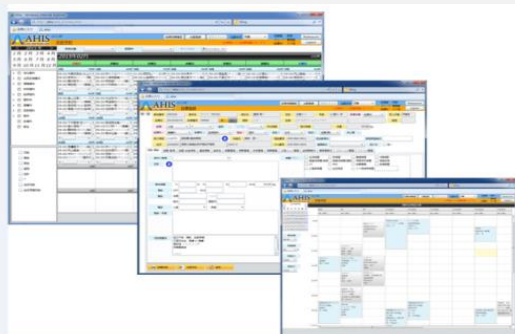


超音波検査室



高解像度X線検査室

電子カルテ・院内画像ネットワーク



電子カルテ (AHIS)



画像ネットワーク (FABRICA)

病理・血液検査センター



病理検査センター



血液検査センター



第1

心臓血管外科
脳神経外科・整形外科

第2

腫瘍科

第3

眼科

第5・第6

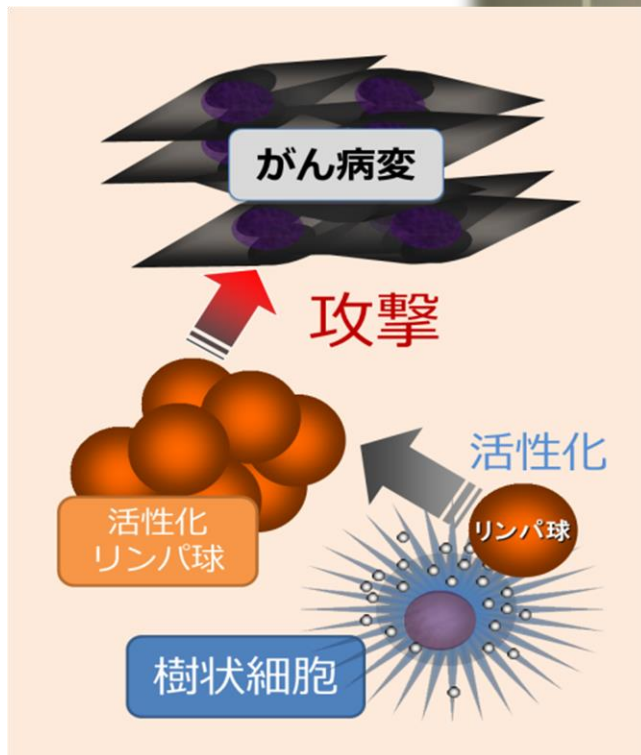
軟部外科一般

第7

歯科口腔外科・内視鏡

陽圧手術室

心臓手術や開胸手術、開頭手術や神経系手術、各種開腹手術や腫瘍摘出術、低侵襲手術（腹腔鏡手術・カテーテル治療）など、特殊な手術や難易度の高い手術を実施

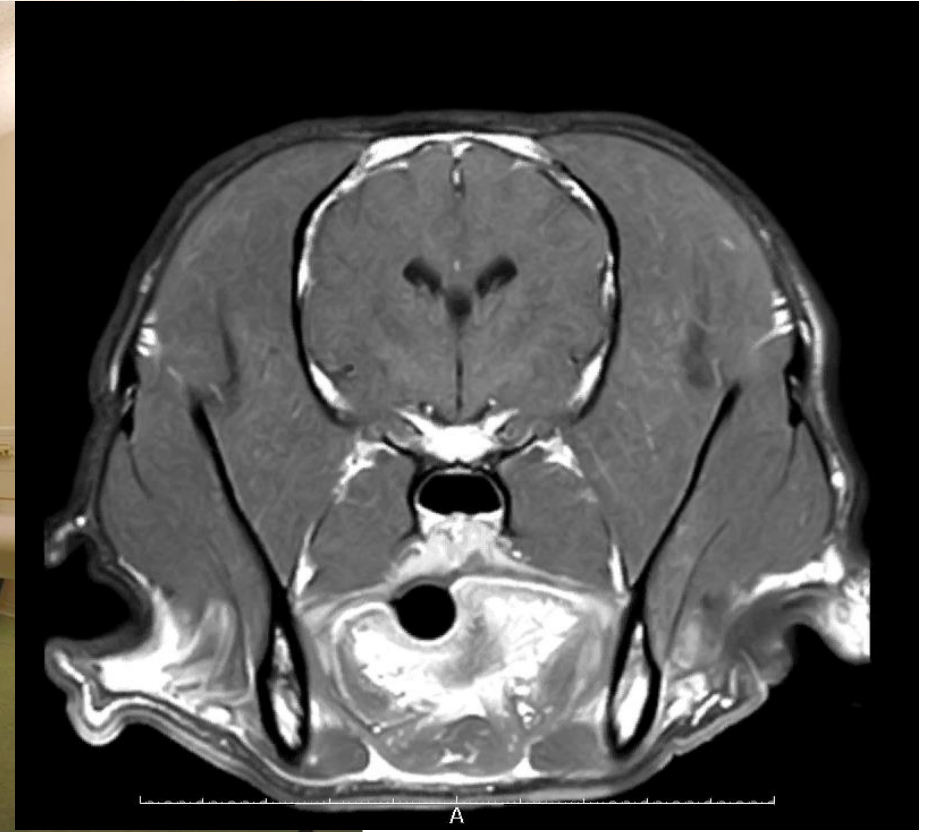


免疫療法室

先進医療の一つとして、がんに対する第四の治療法として注目される がん免疫療法を実施
免疫細胞（リンパ球や樹状細胞）を培養・活性化し、がん患者動物に投与、副作用の少ない
治療法の確立を目指す

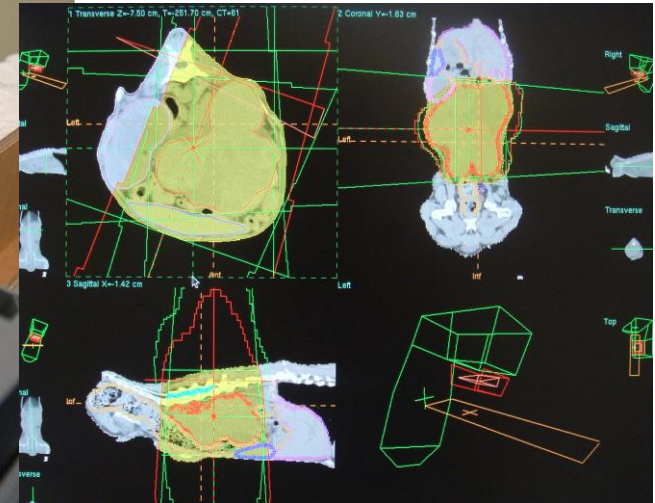


断層画像や3D像を撮影できるCT装置を用いることで、一般の医療機器では見つけることが難しい病気の診断や治療計画が可能となり、高度な動物医療の実践が可能となる。



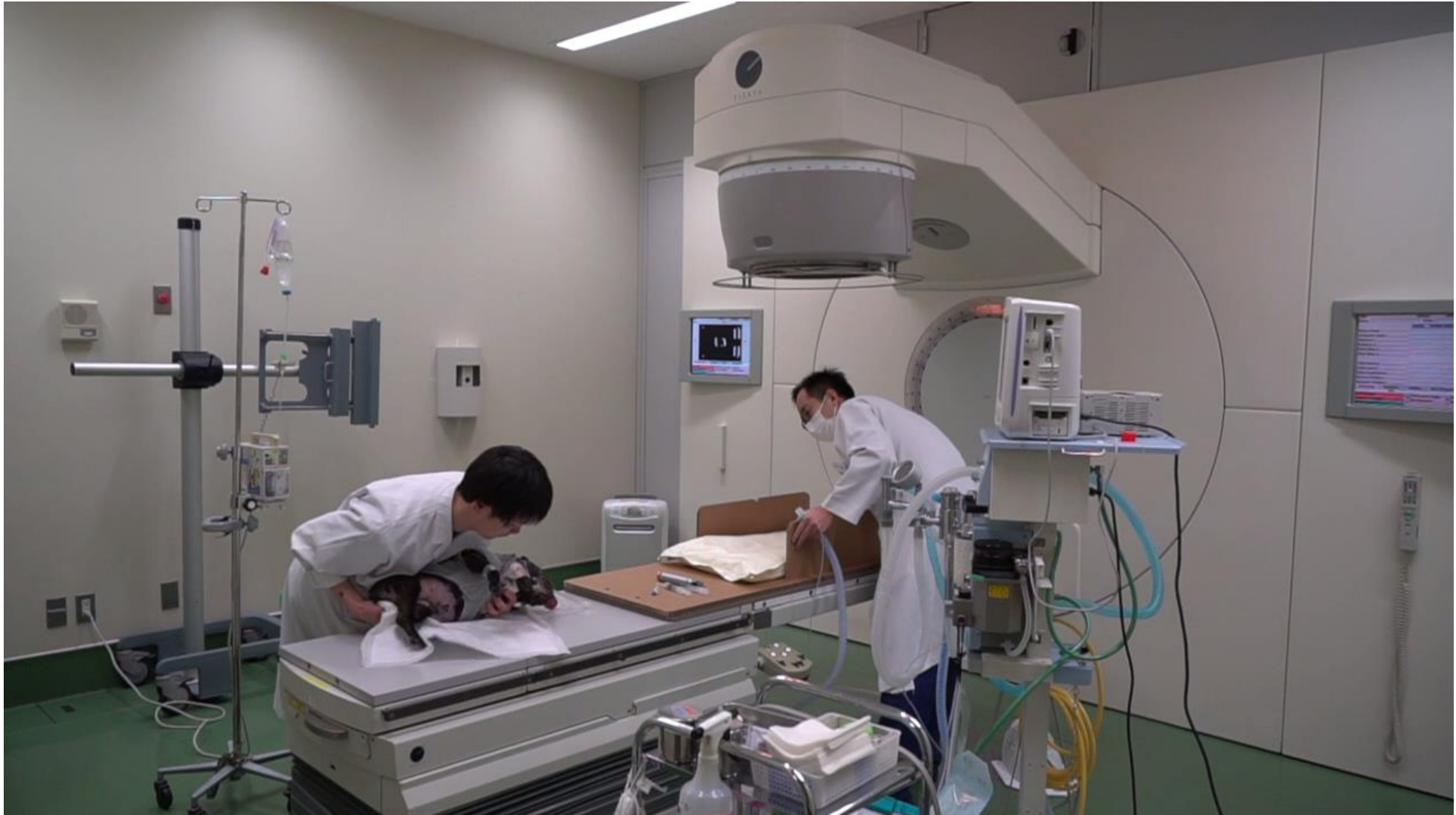
超伝導型の高磁場装置を用いることにより、体の小さな犬猫の脳や脊髄の病変を高解像度で撮像することができ、精度の高い診断につなげることができる

放射線治療装置（リニアック）

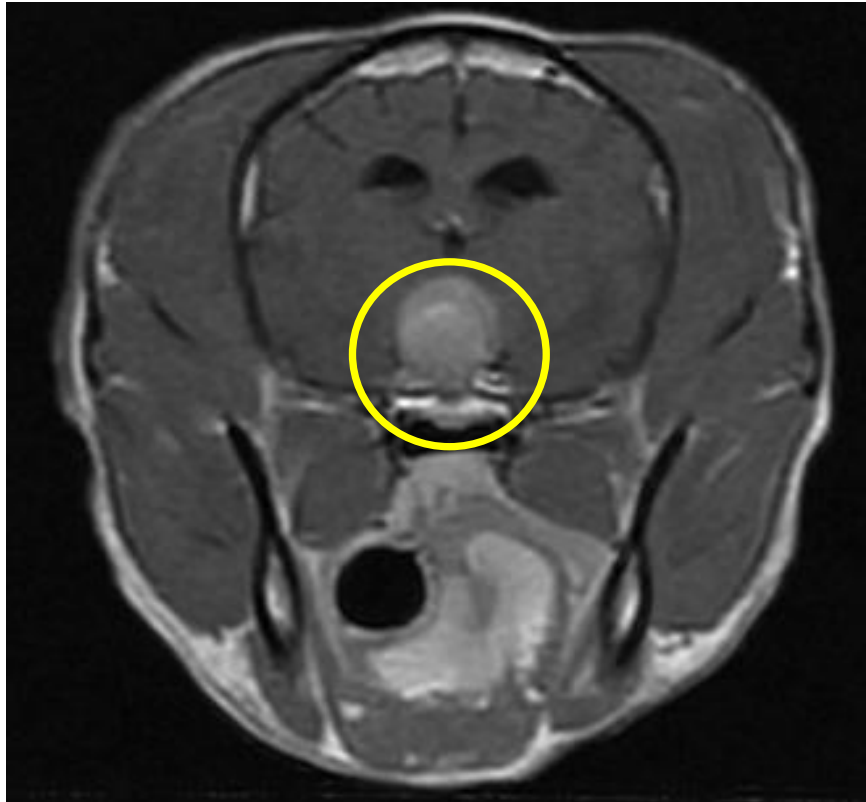


外科手術で切除が困難で、抗がん剤が効きにくい“がん”に対しても、放射線を照射しがん細胞を殺滅することができる。

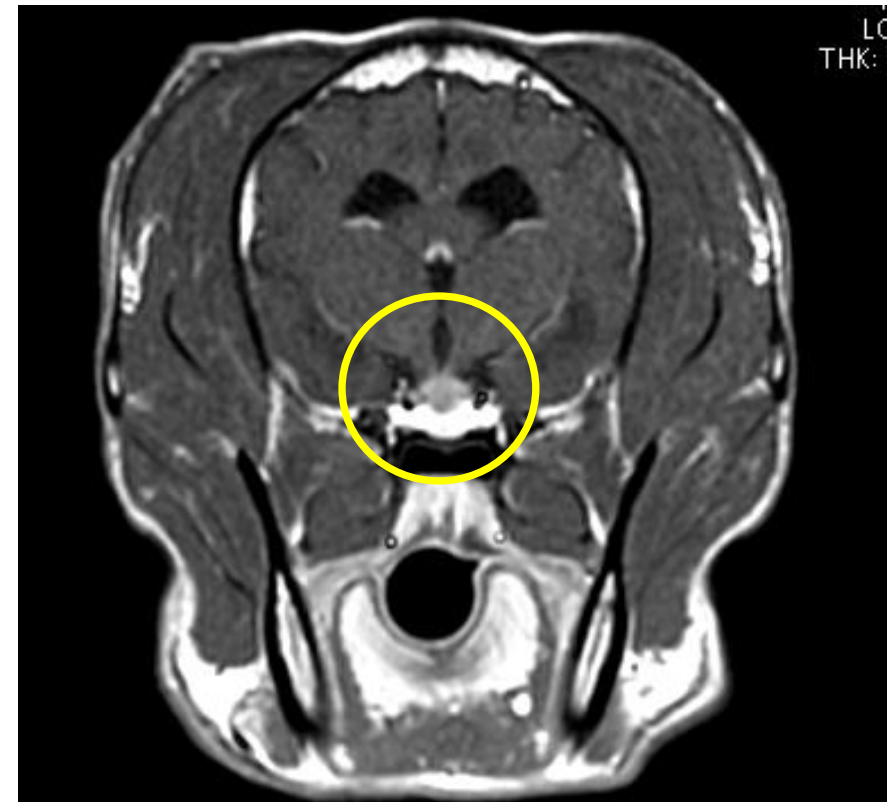
体の小さな犬猫のがんに対しても、精密に放射線を照射できる装置を備える。



照射前

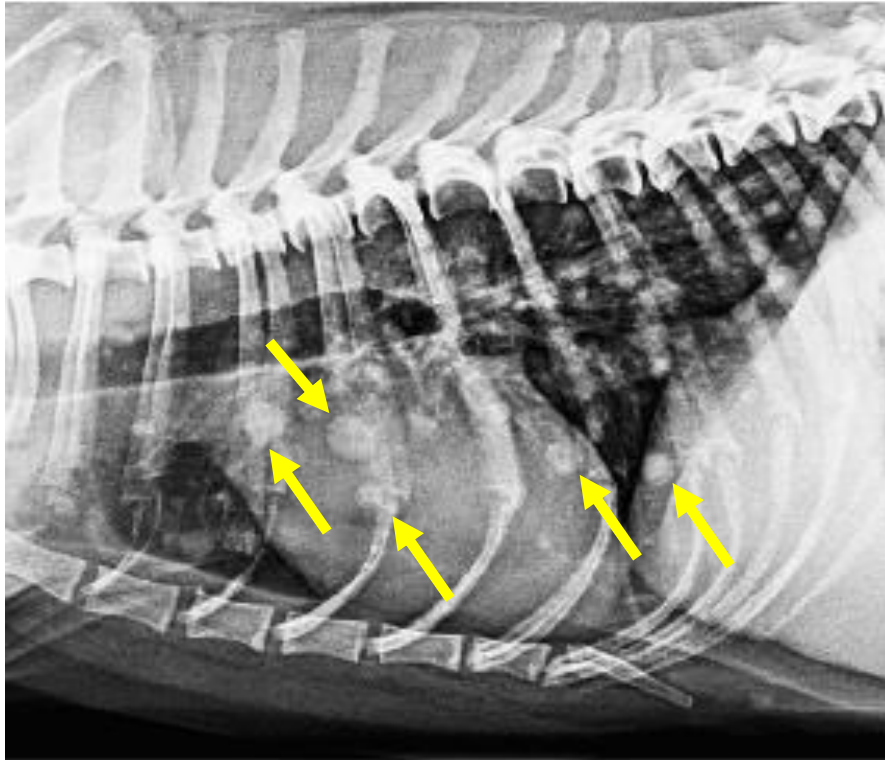


照射後

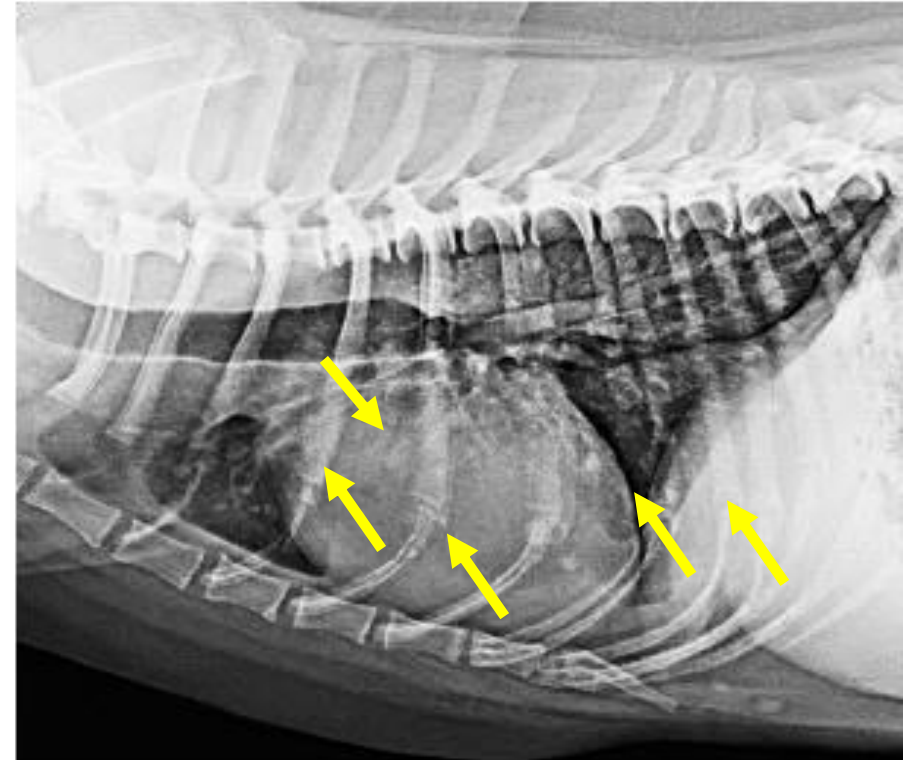


脳の重要な機能を果たす部位に接しているため外科手術で取り除くことが難しいがんに放射線を照射することで、がんが縮小させた患者の例。

治療前



治療後



口腔内に発生した がんに対して、局所的には放射線療法で治療し、多発した転移病巣に対しては免疫療法を実施した患者の例。局所的には、そしゃく機能の喪失や顔貌の変化を起こすことなく、全身的にも副作用のない治療で、QOLを良好に維持しつつ、生存期間も延長できる。

専門診療科による高度医療

▶ 循環器・呼吸器科 Cardiology / Respiratory Medicine	
▶ 泌尿器生殖器・消化器科 Gastroenterology / Urology	
▶ 腫瘍科 Oncology	
▶ 脳神経・整形科 Neurology / Orthopedics	
▶ 眼科 Ophthalmology	
▶ 麻酔科 Anesthesiology	
▶ 放射線・画像診断科 Radiology & Imagings	

- ・ 特定の診療分野に特化し実際の診療を行う
- ・ 動物の生命もしくは生活の質に大きくかかわる分野を広くカバーする診療科を揃える
- ・ 併発する分野の疾患や鑑別が困難な症状の疾患に対して、複数の診療科で診療を実施

例) 心疾患を抱えた高齢動物の腫瘍性疾患

腫瘍科+循環器/呼吸器科

発作症例 (てんかん発作と不整脈発作の鑑別)

脳神経科+循環器科

- ・ 診断の肝となる画像診断や検査・手術に必須となる麻酔を担当し、安全かつ確実に診断できるように、上記診療科をサポートする



高度かつ総合的な獣医療を提供

病院名	 JARMeC Japan Animal Referral Medical Center	獣医科大学病院 (全国に16、その内関東に5)	単科二次診療所
所在地	神奈川県川崎市	東京都内・相模原市・藤沢市	—
診療の特徴等	年中無休 CT・MRI・放射線・PET	土日祝・夏季・年末年始休業 CT・MRI・(放射線)	365日営業が難しい
獣医師数	70 (2017年12月現在)	16~31 *	数名
診療科数	11	10~19	1
競合の状況	以下に記載	学生の教育・研究に重点 急患対応が難しい	総合診断の対応が難しい 大型投資が難しい

* 教員のみ、非常勤を含む

JARMeCが提供する高品質なサービス

高度医療機器

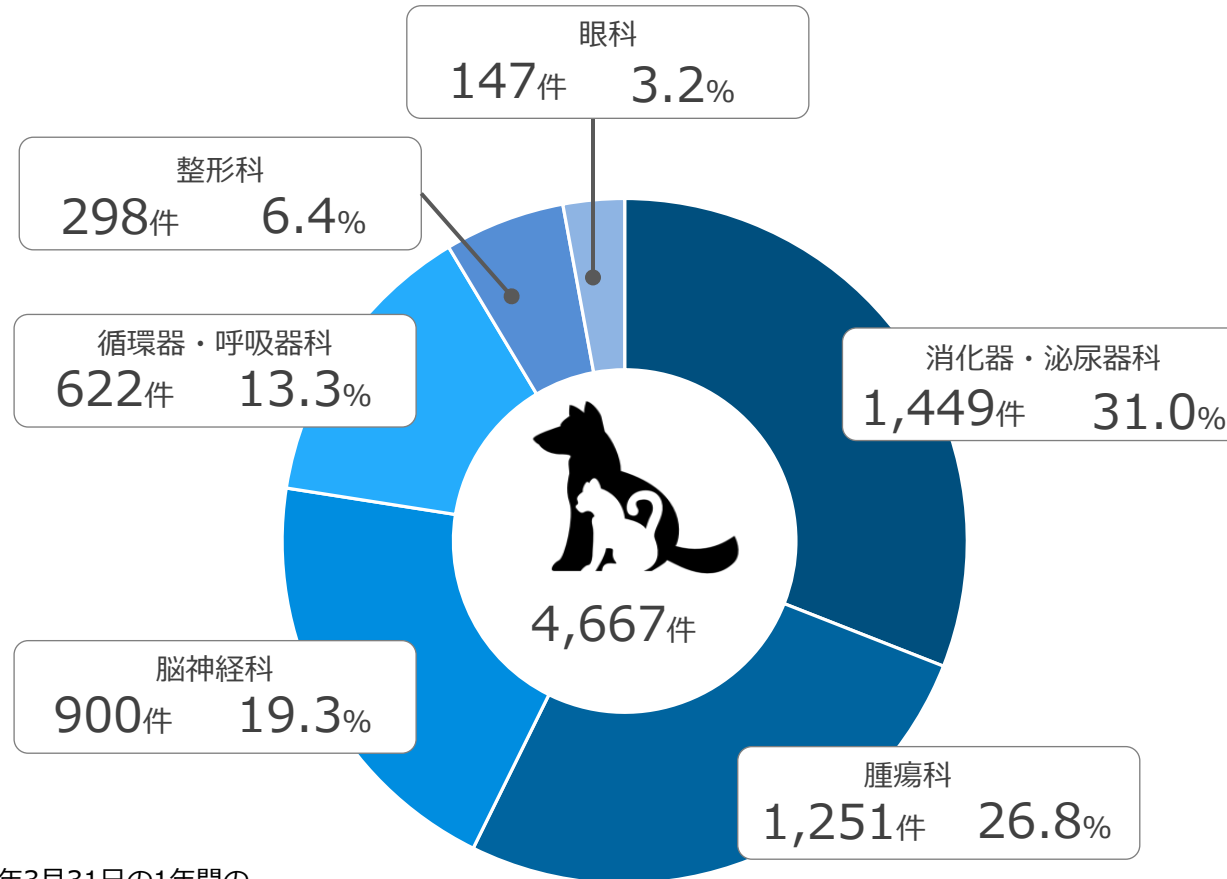
獣医系大学病院と同等あるいは以上の設備を揃える。

柔軟な受入対応

年中無休、予約の速さ（原則当日または翌日の受入を目指す）、
簡便さ（紹介医の電話による受入が可能）は好評である。

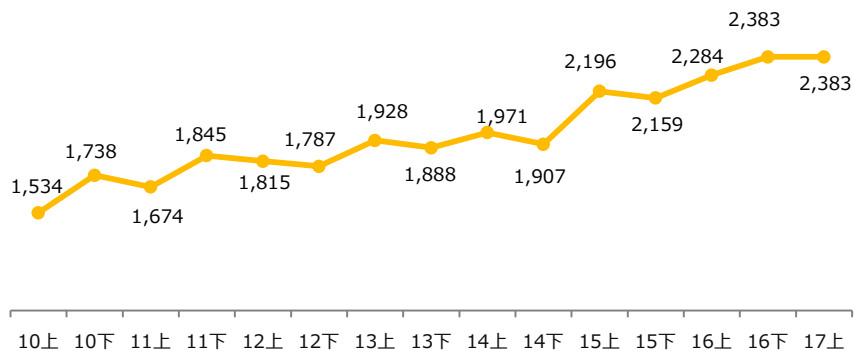
チームによる診療体制

専門診療科において複数の獣医師・スタッフによるチーム医療を実践。
必要に応じて複数の診療科が協力して対応。

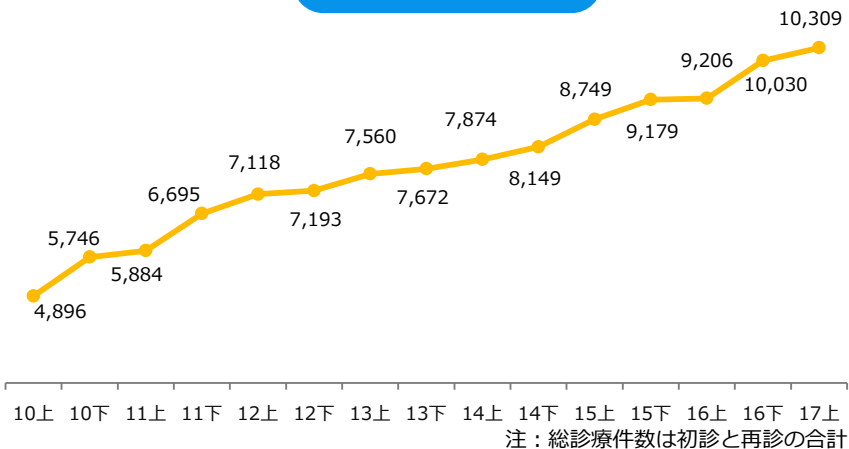


※2016年4月1日～2017年3月31日の1年間の
診療予約情報（電子カルテ）をもとに作成

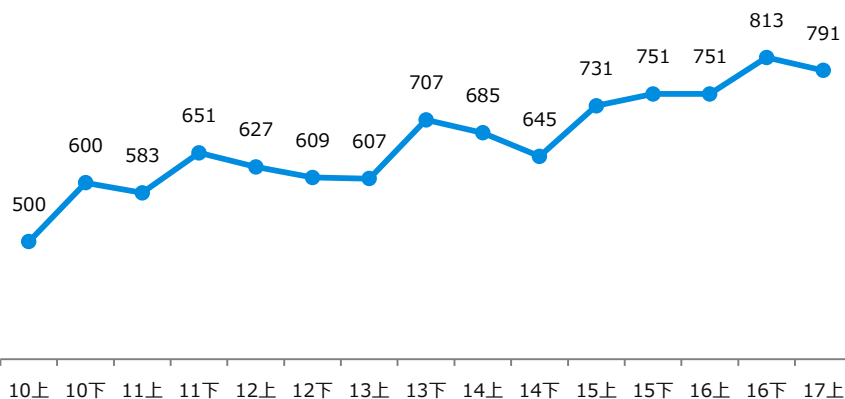
初診件数の推移



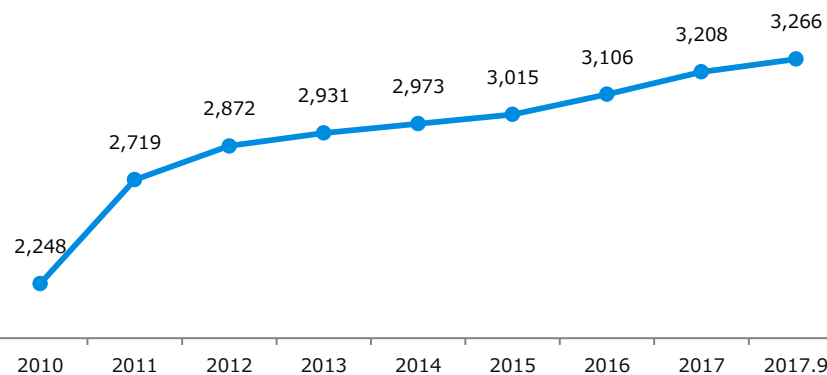
総診療件数の推移



手術件数の推移



連携病院数の推移



注：各年3月

開業以来、獣医師を含めた職員数は順調に増加

JARMeC職員数

※人数は日本動物高度医療センター 単体

	2007年 6月	2008年 6月	2009年 6月	2010年 6月	2011年 6月	2012年 6月	2013年 6月	2014年 6月	2015年 6月	2016年 6月	2017年 6月	2017年 12月
獣医師	19	40	40	43	53	55	57	58	62	66	66	70
常勤	9	31	32	31	40	43	45	41	44	49	50	56
(うち研修 医)	0	11	8	7	8	8	15	19	16	16	16	19
非常勤	10	9	8	12	13	12	12	17	18	17	16	14
動物看護師	2	4	16	20	22	26	33	33	33	36	42	43
事務職員等	6	11	15	14	15	19	19	31	33	33	35	40
計	27	55	71	77	90	100	119	122	128	135	143	153

2008年4月 卒後臨床研修制度をスタート

2009年4月 『小動物臨床研修診療施設』指定

平成21年3月31日

民間では初となる
「小動物臨床研修診療施設」として
農林水産大臣の指定を受ける。

より専門性および公共性の高い施設を目指す。
将来、優秀な人材を育て輩出することができる。

20消安第13377号
平成21年3月31日

株式会社日本動物高度医療センター
代表取締役 金重辰雄 殿

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課長

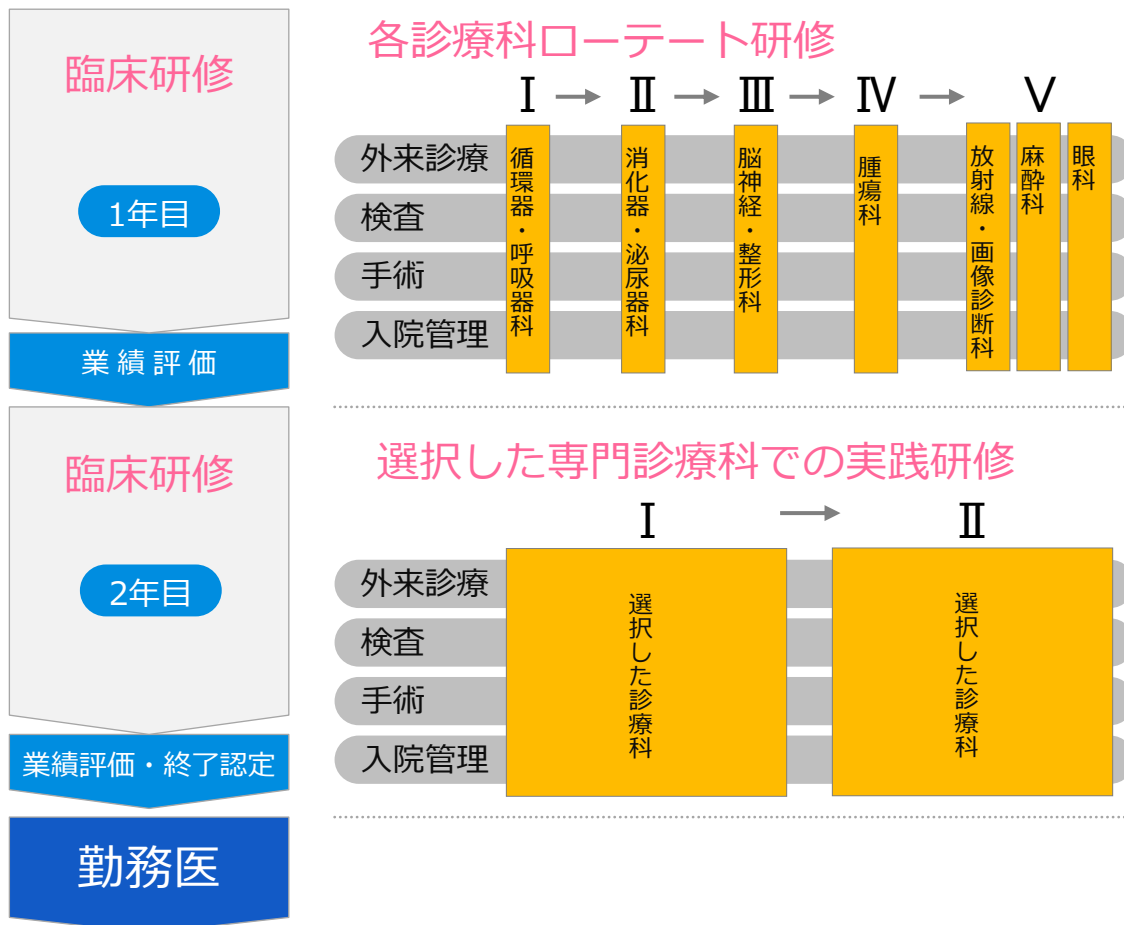
「獣医師法第十六条の二第一項の規定に基づき農林水産大臣の指定する
診療施設を指定する件の一部を改正する件」について

このことについて、先般、貴殿から小動物臨床研修診療施設（単独型臨床研修施設）の指定申請がありました日本動物高度医療センター（神奈川県川崎市）は、本日をもって獣医師法（昭和24年法律第186号）第16条の2第1項の規定に基づく農林水産大臣の指定する診療施設として指定され、これに伴い、別紙のとおり告示が改正されましたのでお知らせします。

なお、「臨床研修診療施設の指定について」（平成4年9月21日付け4畜A第2264号農林水産省畜産局長通知）の記の2（4）のとおり、診療施設の廃止等により臨床研修を実施できなくなった場合（当該施設の整備内容の変更により、小動物臨床研修診療施設指定基準を満たさなくなった場合又はそのおそれがある場合を含む。）並びに当該施設の名称及び住所に変更があった場合は、速やかに農林水産大臣にその旨を報告するよう、お願いします。

卒後臨床研修は、大学卒業後2年間に体系的なカリキュラムと指導体制のもとで、獣医師としての人格や価値観を育成し、患者動物を体系的に診ることができる基本的な診療能力を習得することを目的とする。

卒後臨床研修プログラム



3C Skills



関東・東京合同地区獣医師大会にて 学会長賞・奨励賞を**5年連続受賞**

2015年度受賞時

2013年度

胸腺腫の猫に見られた剥脱性皮膚炎の1例

2014年度

肺吸虫感染の犬の1例

2015年度

腎瘻チューブ設置後に腎切開による結石摘出を行った犬の1例

2016年度

プレドニゾンが奏効した猫消化管好酸球性硬化性線維増殖症の3例

2017年度

ガイドワイヤーの使用により尿路確保が可能となった尿道異常の4例





2.2018年3月期第3四半期 決算ハイライト

- ◆ 2018年3月期第3四半期は、前年同期比**2.3%**の増収
一方、東京病院開院に伴う人件費、消耗品費等のコストも上昇
⇒ 営業利益、経常利益は増益も、
親会社株式に帰属する四半期純利益は減少
- ◆ 診療件数は堅調に推移したものの、手術件数は微減

(百万円)

	2017年3月期3Q		2018年3月期3Q		
	実績	構成比(%)	実績	構成比(%)	前年同期比増減(%)
売上高	1,645	100.0	1,683	100.0	+2.3
営業利益	223	13.6	234	13.9	+4.9
経常利益	213	13.0	218	13.0	+2.4
親会社株式に 帰属する 四半期純利益	176	10.7	161	9.6	△8.5
1株当たり 四半期純利益	75.65	—	68.47	—	—

2018年3月期第3四半期 決算サマリー

(百万円)

		2017年 3月期 3Q	2018年 3月期 3Q	増減	増減率 (%)	備考
売上高	JARMeC	1,292	1,330	38	3.0	初診数3,629件(+3.5%)、総診療数15,473件(+7.9%)、手術数1,168件(△1.0%)
	Camic	353	353	△0	△0.1	検査件数3,905(△1.0%)
	合計	1,645	1,683	37	2.3	
売上原価 + 販売管理費		1,422	1,449	26	0.8	
	人件費	688	724	36	5.3	東京病院開院に先行して人員数増加 (期中平均+10人、期末+15人)
	消耗品費	25	38	12	49.8	東京病院の備品等 (14百万円)
	減価償却費	159	118	△40	△25.4	一部の高額医療機器の償却期間終了により減少
	租税公課	35	51	15	44.8	シンジケートローン契約に伴う不動産担保登記費用 (12百万円) 等により増加
営業利益		223	234	11	4.9	
営業外費用		30	35	5		シンジケートローン組成時の手数料 (15百万円) に より増加。支払利息は減少 (△10百万円)
経常利益		213	218	5	2.4	
特別損益 (損失は△)		△0	△9	△9	-	退職給付引当金繰入 (9百万円)
親会社株主に帰属する 四半期純利益		176	161	△14	△8.5	

(百万円)

	2018年3月期3Q				2018年3月期	
	1Q	2Q	3Q	3Q 累計実績	予想	進捗率
売上高	552	570	561	1,683	2,360	71.3%
営業利益	73	94	67	234	325	72.2%
経常利益	54	95	68	218	310	70.4%
親会社株式に帰属する 当期純利益	32	76	53	161	260	62.3%
1株当たり 当期純利益	13.85	32.26	22.27	68.47	111.08	-

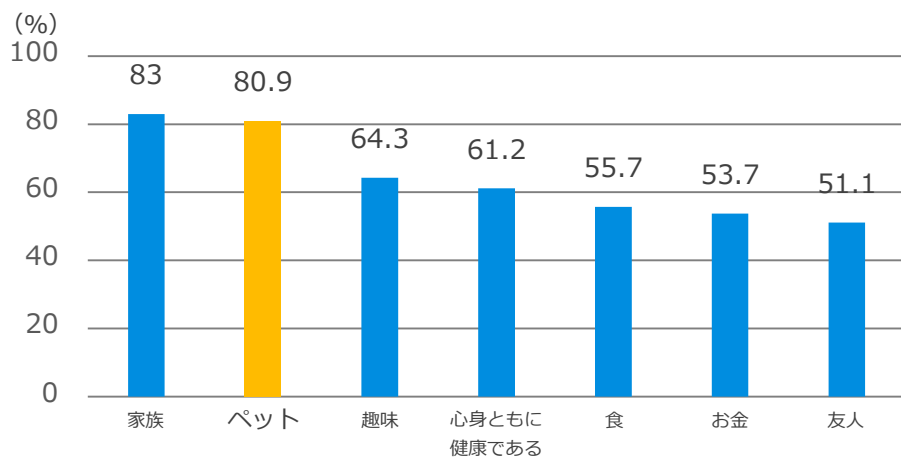
	2017年3月期末		2018年3月期 3Q				
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減 (百万円)	増減率 (%)	主な増加/減少要因
流動資産	1,101	21.5	1,500	24.0	398	36.2	
固定資産	4,023	78.5	4,757	76.0	733	18.2	東京病院建物工事等による有形固定資産の増加 譲渡制限付株式発行等による投資その他の資産の増加
資産合計	5,125	100.0	6,257	100.0	288	22.1	
流動負債	1,727	44.3	1,000	16.0	▲ 726	▲ 42.1	
固定負債	2,169	55.7	3,785	60.5	1,615	74.5	シンジケートローン借換えに伴う短期借入金および1年内返済予定の長期借入金の減少、長期借入金の増加
負債合計	3,897	76.0	4,786	76.5	889	22.8	
純資産合計	1,228	24.0	1,471	23.5	243	19.8	新株予約権行使および譲渡制限付株式発行による増資
負債・純資産合計	5,125	100.0	6,257	100.0	288	22.1	



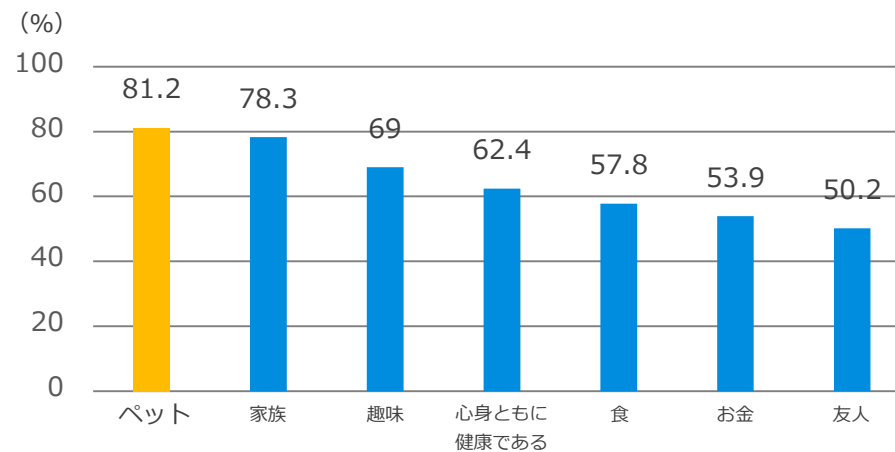
3.市場動向と成長戦略

生活に喜びを与えるもの

犬飼育者

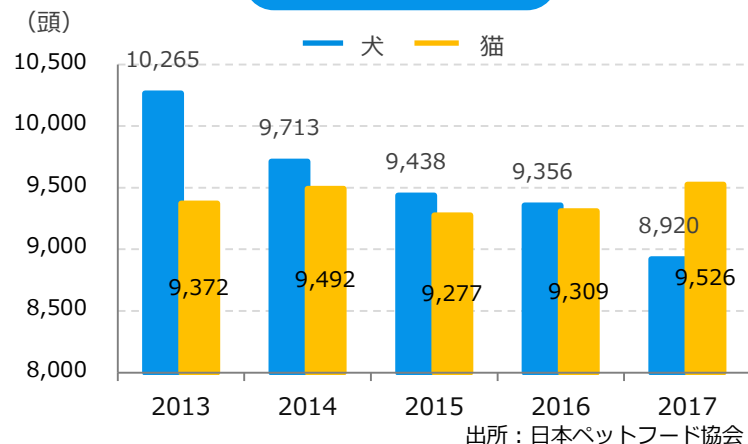


猫飼育者

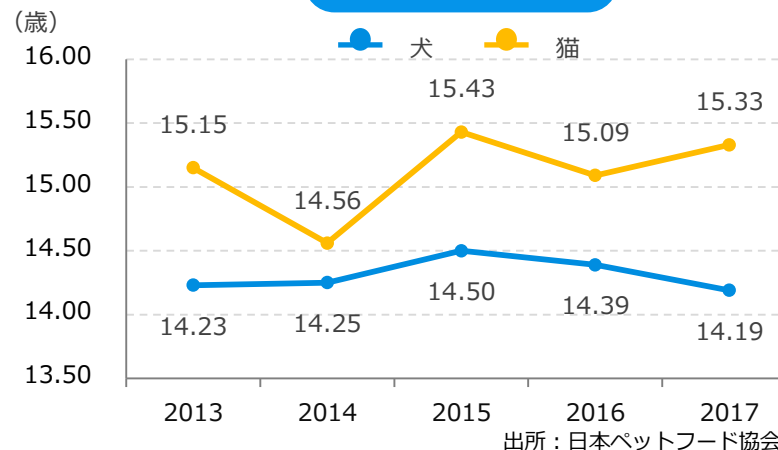


出所：日本ペットフード協会

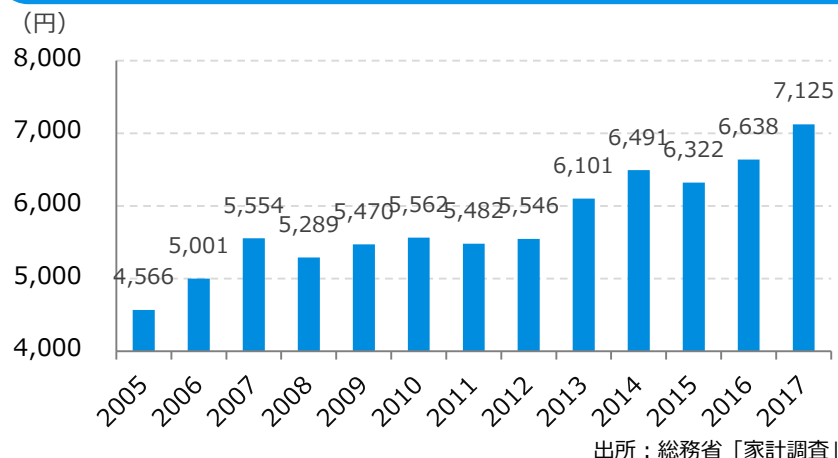
犬・猫の飼育頭数



犬・猫の平均寿命

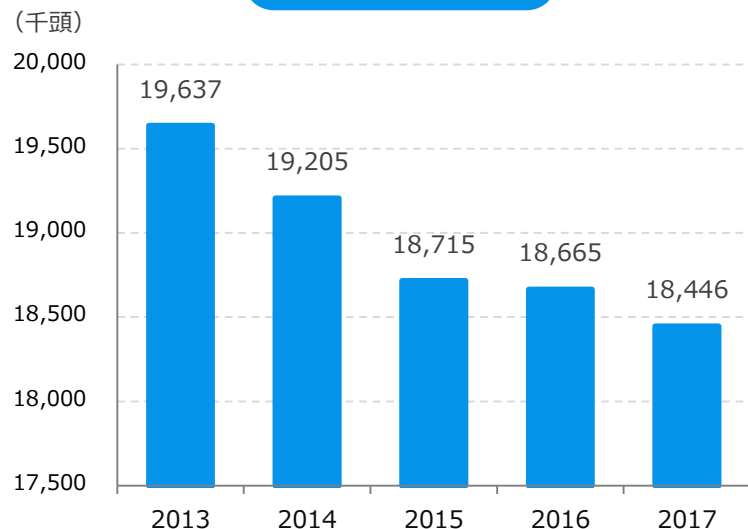


1世帯当たりの動物病院代の年間支出額 (2人以上の世帯)



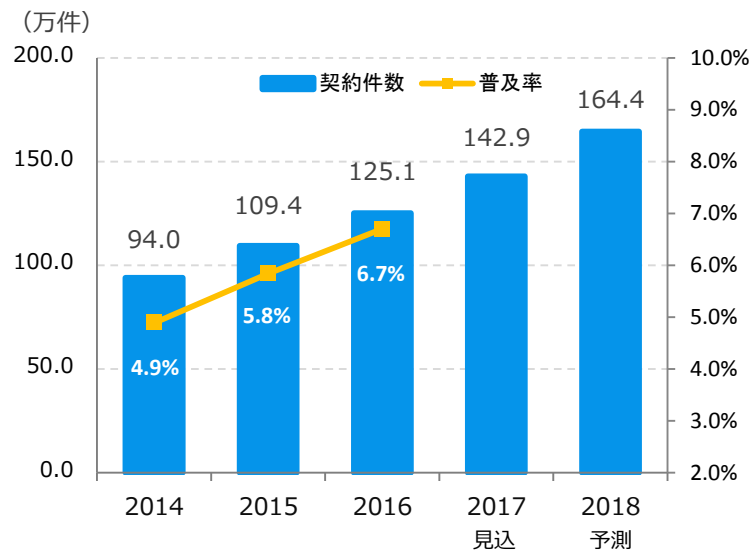
- 犬の飼育頭数は減少傾向、猫の飼育頭数は犬の飼育頭数を上回った
- 平均寿命は犬は横ばい、猫は伸長傾向
- 医療にかかる費用は2005年比で約1.6倍

犬猫飼育頭数



出所：日本ペットフード協会

ペット保険契約件数



出所：富士経済 2017ペット関連市場マーケティング総覧

犬猫の飼育頭数は減少傾向も、ペット保険の契約件数は上昇が続く。
ペット保険の普及率も上昇傾向だが6.7%に留まっており、
将来的に更なる普及が見込まれる。

1. 拠点の拡大

全国主要都市に施設の展開を積極的に推進

- ▶ 第3の二次診療施設として、東京病院（東京都足立区）を2018年1月に開院。
 - ▶ 首都圏東部・北部からの紹介受入強化へ
- ▶ 大阪病院（仮称）は、2019年春以降に開業予定。
 - ▶ 東名阪の拠点をもちに、連携病院の拡大加速へ

2. 対外活動の強化

学会発表、セミナー開催などの学術活動を推進継続

地域の動物病院との連携を積極的に推進


- ▶ 初診数増加へ（2017年3月期比8%を目標）

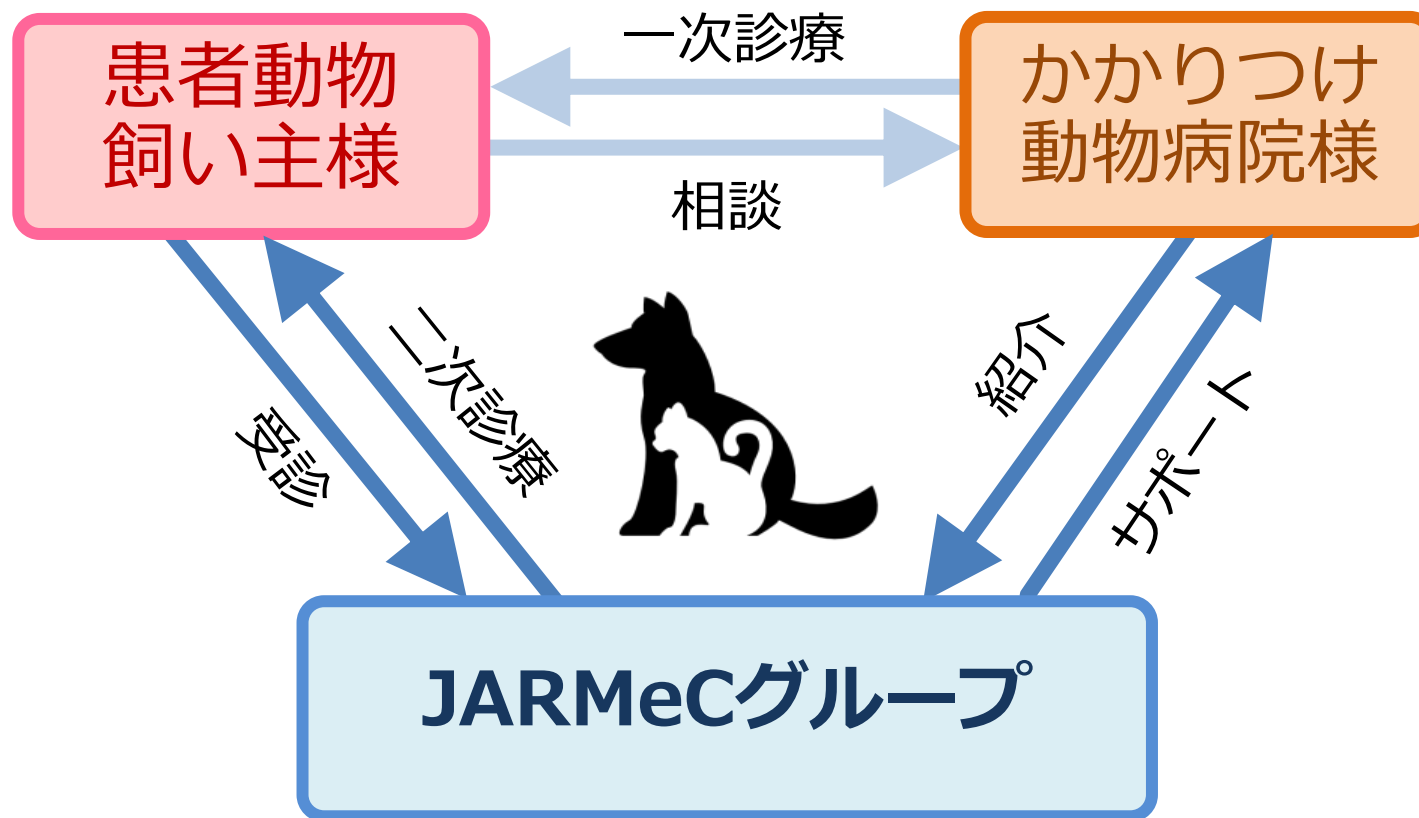
3. 人材確保

大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力
採用活動を積極的に実施

4. 新規事業の拡大継続

動物医療において診療以外の領域で患者動物・飼い主・一次診療施設をサポート
する新規事業挑戦を継続

 動物医療業界のトータルプラットフォーム企業へ



当社は「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」という飼い主様の幅広いニーズに応えるべく、かかりつけ動物病院様が**安心**して紹介できる、患者動物・飼い主様が**期待**して受診できる、その結果皆様と共に我々も**満足**できる動物医療を目指すことで、広く社会に貢献して参ります。



ご清聴ありがとうございました。

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<IRに関するお問い合わせ>

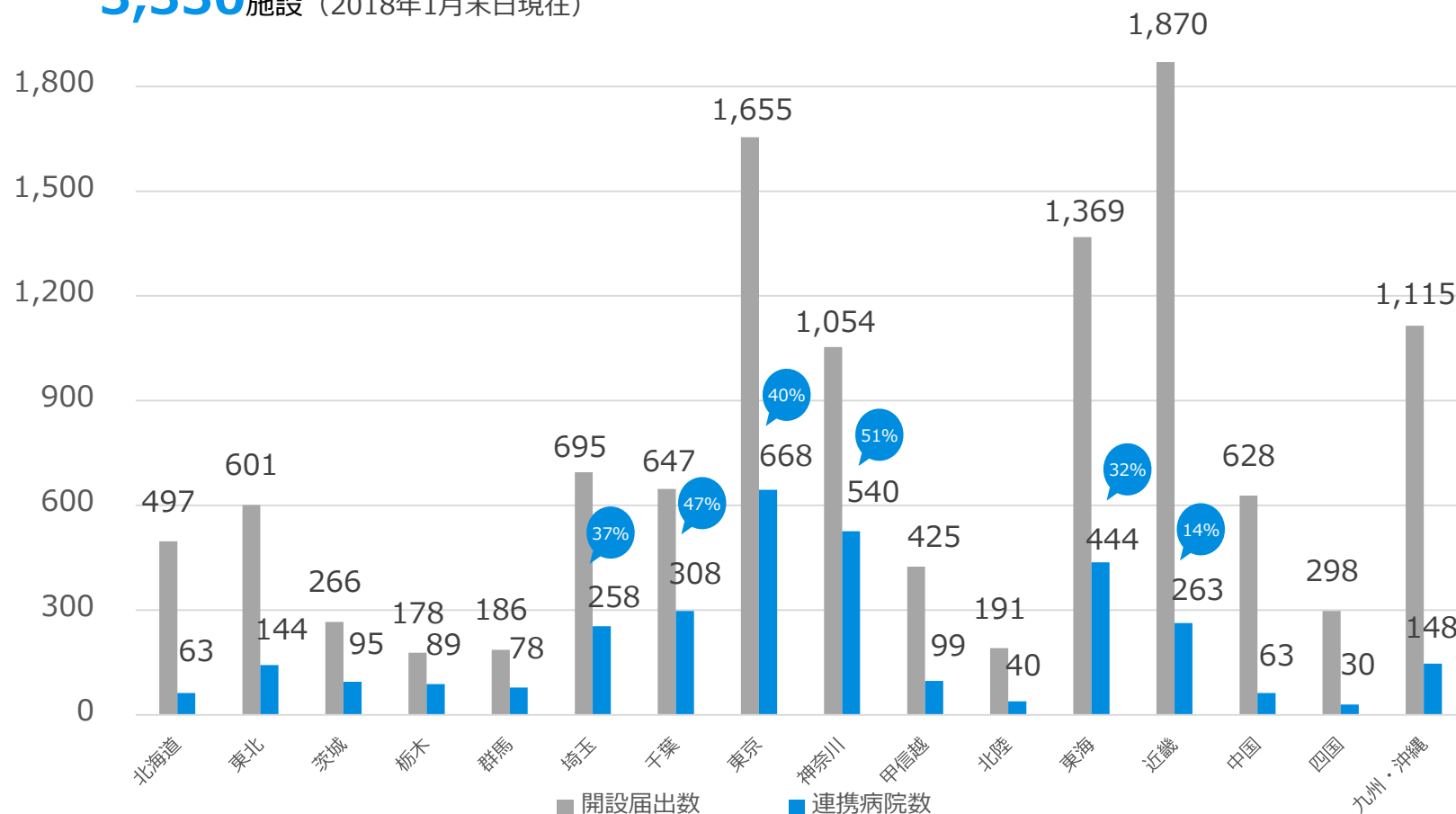
取締役管理本部長 石川 隆行

TEL : (044)850-1320



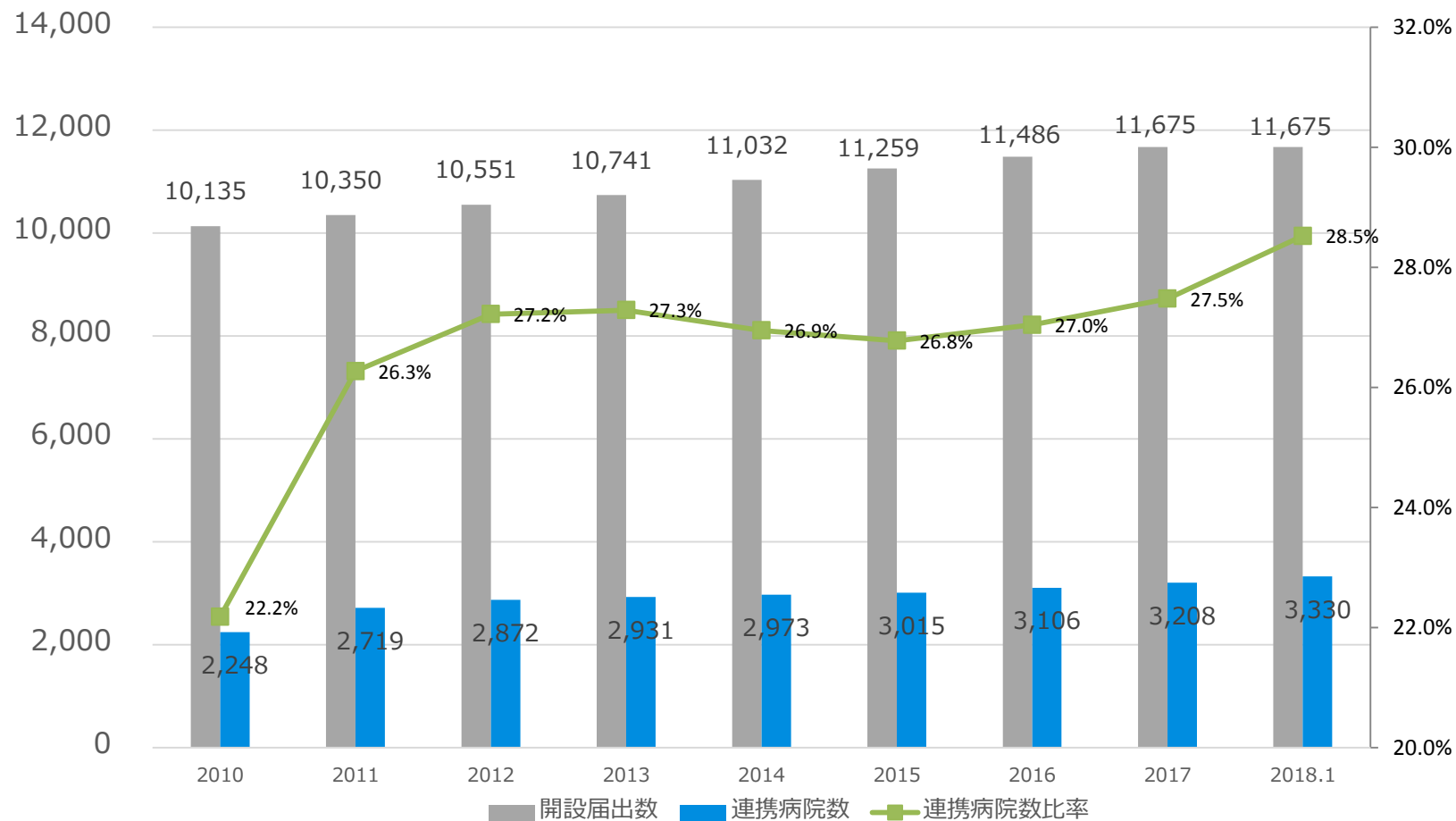
Appendix

3,330施設 (2018年1月末日現在)



出所：地域別の開設届出数は農林水産省より、2016年12月末時点の小動物診療施設の軒数。
 連携病院数は2018年1月末時点の軒数。

28.5% (2018年1月末日現在)



出所：開設届出数は農林水産省より前年12月末時点の小動物診療施設の軒数。
 連携病院数は各年3月末時点の軒数。
 2018.1の開設届出数は2016年12月末時点。